

【高島市】
端末整備・更新計画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
① 児童生徒数	2, 940 人	2, 886 人	2, 771 人	2, 691 人	2, 621 人
② 予備機を含む 整備上限台数	3, 381 台	3, 318 台	300 台	208 台	128 台
③ 整備台数 (予備機除く)		2, 886 台			
④ ③のうち 基金事業によるもの		2, 886 台			
⑤ 累積更新率		100%	100%	100%	100%
⑥ 予備機整備台数		0 台			
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの		0 台			
⑧ 予備機整備率		0%			

(端末の整備・更新計画の考え方)

令和 7 年度に、令和元年度および令和 2 年度に整備した端末を更新する。

- ・ 令和元年度整備端末： 740 台 (リース)
- ・ 令和 2 年度整備端末： 2, 800 台 (購入)

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数： 3, 540 台 (リース端末： 740 台、購入端末 2, 800 台)

○処分方法

- ・ その他 (リース業者へ返却) : 740 台
- ・ その他 (端末更新業務契約事業者へ委託) : 2, 800 台

○端末のデータの消去方法

- ・ リース端末 740 台は、自治体の職員が行う
- ・ 購入端末 2, 800 台は、処分事業者へ委託する

○スケジュール (予定)

令和 7 年 5 月 処分事業者 選定
 令和 8 年 3 月 新規整備端末の使用開始
 令和 8 年 4 ～ 7 月 使用済端末の事業者への引き渡し

【高島市】
ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合（％）

- ・ 必要なネットワーク速度が確保できている学校数：１９校
（小学校１３校、中学校６校）
- ・ 総学校数に占める割合：１００％

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

（１）ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

本市では、全児童生徒および教職員に対し、LTE対応（Wi-Fi＋セルラーモデル）タブレット端末を整備しており、日常の授業および家庭学習に際しては、LTE回線を利用しています。

全ての学校において通信速度が2Mbps以上であるため、ネットワークアセスメントは実施しません。

（２）ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

今後の通信環境等の変化により回線遅延等の不具合が生じた場合は、LTE回線を提供する事業者に対し、適宜、原因特定と改善策を相談します。

【高島市】 校務DX計画

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果（文部科学省 令和5年11月実施）による本市の状況を踏まえ、特に課題と考える次の事項について、各学校と連携を図りながら校務DXの推進を図ります。

1. クラウドサービスの活用

本市では、全児童生徒および教職員に対し、LTE対応タブレット端末とともにマイクロソフトアカウントを付与していることから、情報共有や連絡等にクラウドサービスを活用できる環境にあります。

しかしながら、各学校における校務DX化チェックリストの結果では、「保護者や教職員への調査・アンケートの実施集計や、教職員間の情報共有や連絡」など、一部業務においてクラウドサービスの活用が進んでいるものの、「児童生徒の欠席等連絡や保護者からの問い合わせや日程調整」など、保護者や児童生徒を対象とした活用が進んでいない状況です。

一部の学校においては、保護者との連絡手段として、スクリレやClasstingなどの保護者用連絡ツールを独自に導入し、保護者からの欠席連絡および学校からのお知らせ等をデジタルデータで配信するなど活用を進めていますが、依然として十分な活用ができていない学校があることから、教職員の業務負担軽減および保護者の利便性向上を図るため、各種クラウドサービスの利活用について研究・実践し、校務の効率化をより一層推進します。

2. 校務支援システムのクラウド化

本市では、業務の効率化、事務負担の軽減および行政事務コストの削減を図るため、令和元年度にセンターサーバや統合型校務支援システム等を自庁設置方式（オンプレミス）により構築し運用していますが、サーバ機器等の経年劣化や保守期間終了によるハードとソフトの問題に対処するとともに、システム管理担当者の負担軽減および情報セキュリティ対策の機能強化を図るため、クラウドサービスを主体とするシステムへの更新を予定しています。

教職員の負担軽減やコミュニケーションの迅速化・活発化できる環境を構築するため、学校現場の教員と情報共有しながら、令和8年3月1日稼働を目指し調達事務等を進めていきます。

また、校務系ネットワークと学習系ネットワークとの統合を想定していることを踏まえ、データ連携やセキュリティ対策などについての調査研究を進めるとともに、校務支援システム、校務端末等の更新時期やネットワーク統合後の組織体制を視野に入れつつ検討を重ねていきます。

【高島市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

ICTは、教育・医療・ビジネスをはじめ、ありとあらゆる場所で複雑に関係しあいながら日々進化し続けており、Society5.0時代の実現に向けた大変革が進んでいます。

これからの教育は、この変革期を乗り越える力を培うため、ICTを最大限活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」をととし、児童生徒一人ひとりが様々な情報を主体的に取捨選択する力、多様な意見を取り入れながら理解を深める力の育成が求められています。

本市では、1人1台端末とLTE高速通信ネットワークを活用し、場所や時間に制約されない学習環境を構築しています。ICTを様々な学習場面で効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図り、「自ら考え、判断し、行動する力」の育成を目指します。

2. GIGA第1期の総括

令和元年度～令和2年度の2年間に、全児童生徒および教職員に対し、県内唯一のLTE対応タブレット端末を配備するとともに、普通教室には大型ディスプレイ、職員室とPC教室には大容量通信用の無線接続環境を整備しました。

端末の使用場所に制限がないことから、校舎内だけでなく、体育館や運動場、校外学習先、家庭等、広範囲での多様な学習活動に活用しており、ウェブサイトや地図アプリ等で授業に必要な情報を随時調べることが可能な環境となっています。

また、ご家庭の通信環境の事情に左右されず、公教育として教育機会の不公平・不平等を生じさせることなく、全ての子どもたちに平等に学習環境を提供しており、児童生徒の情報活用能力の育成はもとより、思考力・判断力・表現力等も効果的に培うことが可能となっています。

これにより、令和2年度以降の新型コロナウイルス感染症の蔓延による臨時休業時においても、オンライン同時双方向の授業支援などで子どもたちの学びを保障し、その後も、毎日の自宅への持ち帰り学習はもちろん、修学旅行をはじめとする校外学習での活用や長期休暇中の学習支援、不登校児童生徒向けのオンライン学習支援など、子どもたちの様々な学習場面において、1人1台端末の活用が日常化しています。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGA第1期では、1人1台端末を「学びを豊かにする道具」として日常的に活用することに注力してきました。

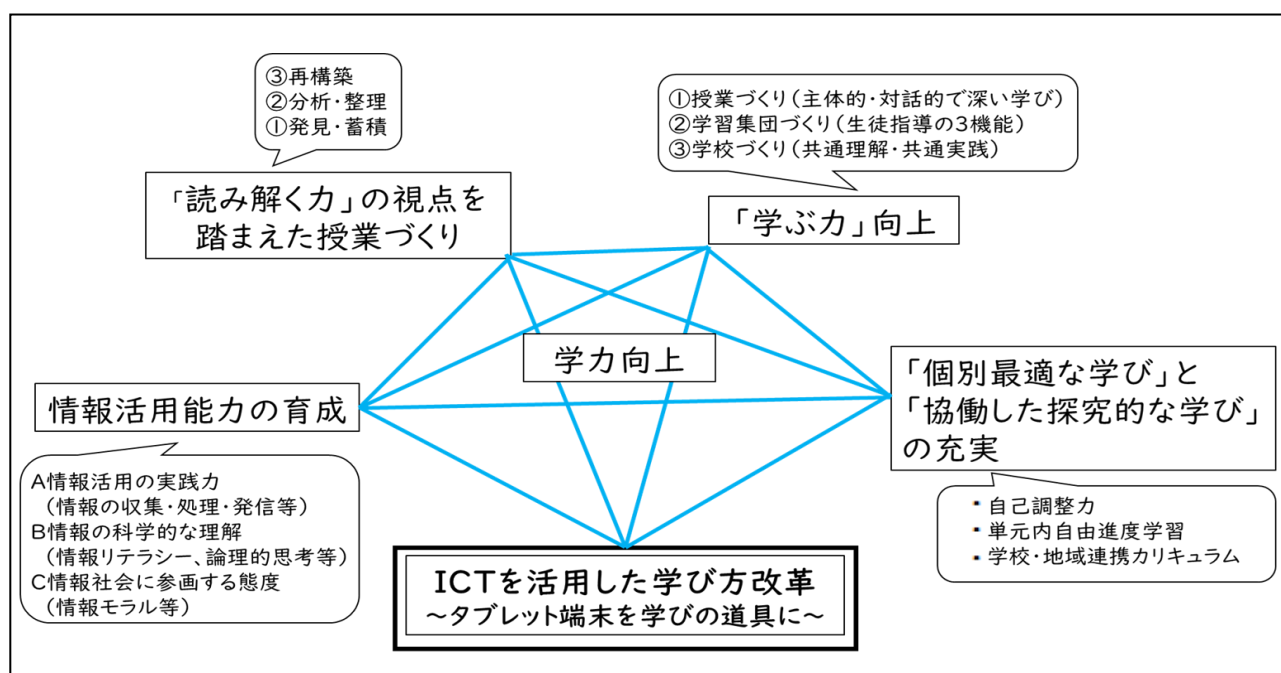
GIGA第2期においても、その方針を継承するとともに、以下の項目についての実現を目指すため、1人1台端末の整備・更新を進めます。

(1) 1人1台端末の積極的利活用

1人1台端末の効果的な活用により、学び方を改革し、次の内容を軸とした「個別最適な学び」と「協働した探究的な学び」の充実を図ります。

- ①情報活用能力の育成
- ②遠隔・オンライン教育の推進
- ③プログラミング教育の推進
- ④最適な教育ソフトの導入に向けた調査研究

加えて、ICTを活用した授業力向上研修、子どもたちのマナー向上やネットトラブルに関する情報リテラシー研修など、教職員のICTスキルの向上を図ります。



(2) 個別最適・協働的な学びの充実

端末を利活用した学習課題への取組により、理解度や学習進度、興味関心等に合わせた個別最適な学びを進めるとともに、「調べる」「発表・表現する」「やりとりする」という授業場面に応じた端末の活用を進め、協働的な学びの充実を図ります。

また、タブレット端末を「学びを豊かにする道具」として活用する力も、情報活用能力の育成で高めるべき大切な力であることから、生徒指導の3機能を生かした学習集団づくりを通して、学校と連携を図りながら学校教育の質の向上を図ります。

(3) 学びの保障

オンライン同時双方向の授業支援などで子どもたちの学びを保障し、公教育として教育機会の不公平・不平等を生じさせることなく、全ての子どもたちに平等に学習環境を提供することにより、不登校児童生徒や特別な支援を要する児童生徒等に対して、その実態に応じて端末を活用した支援を実施します。